令和７年度年間活動テーマについて

１．令和７年度年間活動テーマ

「地域住民のウェルビーイングの実現に資する公民館
　～住民の主体的、相互的な学習による、地域コミュニティの持続的な発展のために～」

２．趣旨

○　令和６年６月、第 12 期中央教育審議会生涯学習分科会より、議論の整理「全世代の一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える社会教育の未来への展開」が出された。

○　その中で、目指す姿として「人生 100 年時代に、経済的豊かさのみならず精神的な豊かさから幸福や生きがいを捉える『ウェルビーイング』を目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」と示された。

○　ウェルビーイングに関しては、「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出され、一人一人の多様な幸せであるとともに、社会全体の幸せでもあるウェルビーイングが実現されるように、制度等の在り方を考えていく必要」があるとされている。

○　このウェルビーイングの実現に向けて、個人の主観的な側面だけではなく、他者との良好な関係性の構築といった社会的環境が持続的に良い状態になるよう、個人の周囲の環境を支えていくアプローチが必要である。

○　また、「第４期教育振興基本計画」（令和５年６月閣議決定）では、めまぐるしく変化する社会で、一人ひとりが社会の担い手となること、そして、社会全体のウェルビーイングの向上を目指し、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を２つのコンセプトに、基本的な方針と教育政策の目標が示されている。

○　こうした中、今後地域コミュニティの拠点である公民館では、「集い・学び・結ぶ」という機能を継続しつつ、地域住民の主体的、相互的な学習による、地域コミュニティの持続的な発展に寄与し、持続可能な社会の創り手を育成することで、地域住民のウェルビーイングの実現に資することができるように考えていく必要があることから、上記テーマを令和７年度の県公連活動テーマとした。

※ウェルビーイング（well-being）は、本議論の整理では、個人的な状況評価や感情の状態を表す「幸せ（happiness）」とは異なり、個人のみならず個人を取り巻く「場」が持続的によい状態であることまでを含む包括的な概念として用いる。また、ウェルビーイングは、国・集団・地域における文化的な背景や価値観と関連するものである。例えば、自らの人生が理想的な状況にあること等に満足感を持つ「獲得的幸福観」と、身近な周りの人との良好な関係性がありそれが安定的に維持されていること等に満足感を持つ「協調的幸福観」のどちらをより重視するかなど、国や地域の文化が異なれば、そこで暮らす個人・集団にとってのウェルビーイングの捉え方も異なることから、多様なウェルビーイングの求め方が認められる必要がある。

【引用：第 11 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理～すべての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～　（令和４年８月　中央教育審議会生涯学習分科会）】